

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

# KEIWA

## COLLEGE REPORT



# 第23号

〈JULY 2000〉

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP

## 新約学の第一線から 山田耕太

新任教員紹介

1999年度決算及び

2000年度当初予算

タイ王国特命全権駐日大使一行来学

ノースウェスタン大学からのお客様/卒業後の私

お知らせ/2001年度入試のご案内

夜間コースを開講しました!!/2000年度公開講座

ゼミ紹介/著書紹介/クラブ紹介

2000年度後援会事業報告/学事予告/寄付者ご芳名

# 2000

今年度の入学式は、4月4日に新発田市民文化会館で行われました。写真は敬和学園高等学校出身の石栗丈也君が、新生を代表して宣誓を行っているところです。

また、入学式、後援会総会に引き続き、今年初めて保護者ガイダンスが開催されました。教務部長、学生部長、国際交流委員長、就職指導室長がそれぞれの立場から、学生がより充実した大学生活を送るために、保護者の方も一緒に取り組んで欲しいとのアピールをしました。



## もくじ

新約学の第一線から	山田耕太	1	ゼミ紹介	アラン・ブロンデ	10
新任教員紹介		4	1999年度決算及び		
タイ王国特命全権駐日大使一行来学		8	2000年度当初予算		11
ノースウェスタン大学からのお客様		8	著書紹介	房文慧	12
卒業後の私		8	クラブ紹介	酒井 努	12
お知らせ		8	2000年度後援会事業報告		13
2001年度入試のご案内		9	学事予告		13
夜間コースを開講しました!!		9	寄付者ご芳名		13
2000年度公開講座		10			

<表紙> 安藤 唯一 「碇泊中の海は碧く」  
(安藤司文 本学教授 お父上 日曜画家 画集「表象を描く」から)

# 新約学の第一線から

教授 山田 耕太



引車となつている、J・D・G・ダン教授の  
ダラム大学神学部教授就任講演と、その当  
時、パウロ研究で最も興味深い議論を展開  
していたE・P・サンダース教授との議論  
であるダン教授のマンチェスター大学T・  
W・マンソン記念講演を翻訳し、それらに  
解説論文をつけて、イギリスから見た最新  
の新約学の潮流を報告した。

敬和学園大学は、早いもので創立十周年  
を迎え、今までの歩みを顧みて心から感謝し  
ている。神学は民主主義的な社会の基盤を  
点検する作業になるのであるが、研究者と  
して主にこの十年間に心を注いで打ち込ん  
できたことを簡単に報告させて頂きたい。

## 新約学の新しい潮流

今から十五年程前に、イギリスから帰国  
すると直ぐに、『新約学の新しい視点』と  
題した新書版の本を『ダラム便り』という  
留学記を出版して下さったすぐ書房から出  
させて頂いた。この小さな本では、現在で  
はイギリスを代表し、英語圏の新約学の牽

引車となつている、J・D・G・ダン教授の  
ダラム大学神学部教授就任講演と、その当  
時、パウロ研究で最も興味深い議論を展開  
していたE・P・サンダース教授との議論  
であるダン教授のマンチェスター大学T・  
W・マンソン記念講演を翻訳し、それらに  
解説論文をつけて、イギリスから見た最新  
の新約学の潮流を報告した。  
今から見ると、その後膨大な量の専門  
書や専門雑誌の翻訳をすることになるとは  
思ってもいなかった最初の翻訳で、訳文も  
拙いが、この本は直ぐに研究者を始めとし  
て関係者の間では好意をもって受け入れら  
れた。内容も今から見れば多少古くなって  
おり、それなりの役割を果たしたと思うが、  
現在でもそこで示した新しい研究の潮流  
は、ますます顕著になつている。その間に  
いろいろな優れた研究書や概説書が出版さ  
れたが、新しい研究の潮流を包括的に紹介  
した本は、まだ日本では書かれていない。  
毎年、新約学の研究書と論文は夥しいほど  
の分量が出版されており、全体に精通する  
のはほとんど不可能であることも関係して  
いる。

その中で示した新約学の新しい潮流と  
は、一九九三年に新潟日報の「研究室から」  
という短いコラムでも数行で書いたことが  
あるが、二つの大きな潮流がある。一つは、  
社会学、社会史、社会心理学、社会人類学  
などの方法論と成果を取り入れた社会科学  
的アプローチであり、もう一つは物語論  
(ナラトロジー)や修辞学(レトリック)  
などの方法論と成果を取り入れた文学批評  
的アプローチである。これらは私の見る限  
りでは、旧約学にも同様な潮流が見られる。  
しかし同時に、歴史学の批評学的方法や編  
集史などの伝承史という「古い」方法論に  
よる研究も相変わらず続いている。  
ポスト・モダンと言われる「新しい」批  
評方法も、この十五年間で極めて多様化し  
ているが、主流はやはり社会科学的方法のア  
プローチであり、文学批評的アプローチである。  
私の関心がこの十五年間で、ますます文学  
批評に傾いていることも関係するのかも知  
れないが、最近の十年間で爆発的に盛ん  
になつているのは、後者であり、しかも私  
が最も関心をもっている修辞学的批評であ  
る。だが、残念なことに保守的な風土の日

本の学会では、修辭学的批評に携わっている研究者は皆無に近い。

### 修辭学的批評とは

新約聖書に古代ギリシア・ローマの修辭学を用いて解釈する方法は、最近ではシカゴ大学のH・D・ベッツ教授が、一九七九年に『ガラテア書注解書』（ヘルメネイア聖書注解シリーズ）を書いてから脚光を浴び、またその注解書での修辭学の用い方が議論的になり、一九八〇年代から始まり、特に一九九〇年代には、爆発的に広まってきた方法論である。新しい学問が、研究書という形式ではなく、注解書という形式から始まることがあるが、ベッツ教授の注解書もその類である。

しかし、古代から中世を経て近世まで修辭学が、リベラル・アーツ教育の重要な科目として教えられ、また近世まで説教に修辭学が用いられていたことも関係して、近世までの聖書解釈に修辭学を用いるのはまだではなかった。ベッツ教授は、近代以降に消えていった修辭学的解釈を極めて現代的に復活させたとも言える。なお、近代以降に修辭学が教育の領域から消えていったのは、ギリシア語・ラテン語などの古典語の教育がリベラル・アーツ教育から消えていき、その代わりに現代の外国語教育が入ってきたことと無関係ではない。

古代ギリシア・ローマの社会では、議会や法廷や祭りの演説で雄弁術が重視され、歴史や書簡などの散文でも修辭学が重視されていた。そのため当時の自由人にするリベラル・アーツ教育でも修辭学がその冠とされていた。一言で要約すれば、ギリシ

ア・ローマ社会では、コミュニケーションに修辭学が不可欠であったのである。そこで、少なくとも新約聖書の中でも比較的教養のあるギリシア語で書かれているとされてきたパウロ書簡やヘブライ書やルカ文書（ルカ福音書や使徒言行録）などを解釈するのに、古代の修辭学を分析の道具として用いるのは、有効と考えられるのである。修辭学的批評は、アリストテレスの『修辭学』、キケロの『構想論』、クインティリウス・アヌスの『弁論家の教育』などに代表される修辭学のハンド・ブックなどを用いて、新約聖書のテキストを分析する「古典派」の流れと、ビツァー、ブース、パークなどの現代修辭学者の理論を適用する「現代派」の流れと、両者を併せ用いる「折衷派」の流れがあり、多数派は折衷派である。こういう分け方をすると、私は古典派に位置づけられる。

### 関心をもったきっかけ

私が一九八一年秋から一九八六年初頭までイギリスのダラム大学の神学部で大学院に留学していた時に、ベッツ教授が二度ダラムに來られた。一度目は、新約学の世界の権威であるC・K・バレット教授が、ダラム大学の教授を引退する直前に、ダラムにベッツ教授を招いた。その時は公開講演会でもあり、大勢の聴衆と共に大教室で聞いたので、その時の講演の内容と質疑応答は詳しくは覚えていない。

二度目にダラムに來た時は、ダン教授がバレット教授の後任として着任した後であった。イギリスの大学院の教育は中世以来の個人指導（テュートリアル）で行われる

が、ダン教授はケンブリッジなどで行われているように、個人指導とは別にダラムでも大学院セミナーを始めた。最初の一年は、ダン教授が教授に就任したお祝いも兼ねてか、世界から著名な新約学者たちが、わずか十名の大学院生のために、毎週のようにダラムの新約セミナーを訪れ、最新の論文を読み、それに基づいてディスカッションがなされた。ダラムにいながらにして、最先端の学問の潮流に触れることができた。

ベッツ教授もその中の一人であった。しかもこれから印刷にかかり、本になる直前の第一コリント書一―四章の修辭学的批評の論文を読んで下さり、それに対してコメントしたり批評したりすることができたのは、スリリングな経験であった。その時の論文と質疑応答は、わずか十名のセミナーで、小さなセミナー・ルームで聞いた。また、その晩は、ダン教授の自宅に他の大学院生と共に招かれて行き、バレット教授夫妻もいて、ベッツ教授と親しく言葉を交わしたこともあって、よく覚えている。

しかし、その当時はこちらの修辭学の知識が皆無に近かったこともあって、それが開花してくるにはある程度の時間の経過が必要であった。さらに、残念なことにベッツ教授は『ガラテア書注解書』に対する批判のためか、膨大な「山上の説教」（マタイ福音書五―七章）の研究書と「山上の説教注解書」（ヘルメネイア聖書注解シリーズ）という、これ以上に厚い本は物理的に不可能な程の注解書を書いて、修辭学的批評の第一線からは離れていってしまった。

## ルカ文書の研究から

本学が開学して間もなく一年目が経とうとしていた春先に、ハイデルベルク大学で開催される新約学を中心とした修辞学的批評の第一回国際研究集会への招待状を突然受け取った。その前年の秋に、「使徒行伝のジャンル」と題して、日本の新約学会で最初に修辞学的批評を試みた発表を行ったのであったが、それを聴いていたある新約学者の有力な方が修辞学的批評のもう一人の世界的権威である太平洋神学院のW・ヴェルナー教授が東京で講演した際に、拙いながらも日本で修辞学的批評を行っている者として推薦して下さったようである。開学一年目の忙しさの中で、数カ月しか猶予がなく、その時点では国際研究集会に出る余裕もなかったたので、残念ながら断念せざるを得なかった。

一九九三年の秋に、今度は南アフリカ大学から招待状が突然飛び込んできた。忙しいのは相変わらずであったが、ほぼ一年後でもあり準備もできるので、発表の要旨を送ったら採択され、一九九四年の夏に南アフリカ大学で開催された、第二回目の新約学を中心とした修辞学的批評の国際研究集会に出席した。マンデラ大統領誕生の新生南アフリカでの国際研究集会の詳しいことは、敬和カレッジ・レポート第六号に概要を報告したので、ここでは繰り返さない。発表した論文は、他の二十人程の発表と共に、イギリスのシェフィールド・アカデミック・プレスから論文集として出版された。

一九九五年の秋には、カリフォルニアのマリブにあるベッパードイン大学から招待状を受け、発表要旨が採択され、一九九六

年夏にカリフォルニアに出かけて行った。

この国際研究集会は、二十名弱の大変小さな規模であり、南アフリカでの国際研究集会の五分の一の参加者で、参加者全員が前もって送っておいた自分の論文の要点を述べ、質疑応答して相互に批判し合って議論が進められていった。人数が少なかったことで、世界的な研究の推進力となる若手の実力者が誰であり、国際研究集会を企画・運営して舵を取る年配者が誰であり、どのような手法で会議を企画・運営して出版にまでもっていくのか、などという舞台裏がよく分かった。この国際研究集会で発表した論文も、シェフィールド・アカデミック・プレスから論文集として出版された。

## パウロ書簡の研究へ

数年前に、日本キリスト教団出版局から『新共同訳・新約聖書略解』の第二コリント書の注解の依頼を受けた。現代聖書注解シリーズで第二コリント書の訳書を出したことがあり、バレット教授もダン教授もパウロ研究で定評があるので、その役が回ってきたのであろう。しかし、パウロ研究者なら知っていることだが、第二コリント書ほど面白い書はないが、これほど難解な書はないのである。二百年以上も前から世界的に著名な学者がさまざまな重要な学説を出していて、主要な点で現在も一致した見解がなく、意見が分かれているからである。しかも原稿用紙で百数十枚に収めるのは、至難の業である。

それ以来、コリント書の研究にも打ち込むこととなった。その後に、新潟市内のある教会が無牧であるので、月一回説教をす

るように依頼を受けた。そこで、注解書の原稿を書きながら説教をし、説教をしながら注解書を書くということが始まった。もちろん注解書の原稿と説教は別である。しかし、こうすると短い時間で集中して多くの研究書と注解書と論文を読むことができた。注解書を書くのは、バレット教授もある注解書の冒頭で述べているように、「幸いな時」である。同時に、コリント書のいくつもの難問を解き、その成果を学会等で発表することが始まった。幸い注解書の方は既に出版されている。「パウロ書簡における書簡理論的・修辞学的研究」という課題で、文部省の科学研究費も交付して頂き、これで国際研究集会の度などの大幅な持ち出しもなくなりそうである。また、新潟市内の教会の牧師も着任し、二年間のコリント書の講解説教も無事終えることができた。

昨年秋にはスウェーデンのルント大学から招待状を受け、幸い発表要旨も採択され、七月下旬にルント大学で開催される修辞学的批評の国際研究集会に出かける。今回は修辞学的「議論」がテーマで、発表者は二十八名、参加者は四十八名、ヨーロッパ勢が多い。発表者の四日間の滞在費は、スウェーデン・アカデミーとスウェーデンのある財団が寛大な配慮で一切を賄って下さる。私は第二コリント書の論文を読むが、アメリカの若手のリーダー的な二人が第二コリント書の論文を発表し、議論の中心になりそうである。さて、どうなることやら。今回からは原稿は既にインターネットで公開され、事前に相手の論文を読むことができ。論文集はアメリカのトリニティ・プレス・インターナショナルから出版の予定。

# 新任教員紹介

## 生まれ故郷に戻って来ました

教授 石川 喜一



新発田市に生まれた私は太平洋戦争が終った翌年、外ヶ輪小学校を卒業しました。そして、新発田中学(旧制)

に入学、昭和二十七年に新発田高校(新制)を卒業しました。その後、新潟大学医学部を卒業し医者になりましたが、臨床医にならず出身校の生化学講座で研究生活を送ることになりました。昭和五十二年に山形大学医学部に移りましたが、平成十一年三月に定年退官するまで、一貫して研究生活を続けました。そんな訳で、半世紀の間、新発田を離れておりました。しかし時々、お墓参りに戻っておりましたし、山形は比較的新発田に近いので親戚で結婚式や法事がありますと実家の長男の役目としてできるだけ出席しております。なので新発田の街が変化してゆく様子はある程度承知しておりました。敬和学園大学が新発田にできたとき、「やっと新発田にも大学ができたか」という感慨があったのを覚えております。その大学に将来、奉職するようになるとはまったく思っておりませんでした。この四月に敬和学園大学に着任しまして、私はまず、この大学のこと、それから新発田のことをもっと知りたいと思いました。大学のことは、北垣学長はじめ諸先生がいろいろと教えてくださいましたし、北垣学長、延原

国際文化学科長、山田教務部長がお書きになった文章を読んだり、大学紹介のパンフレット「人間の世紀がはじまった」を読んだりしてだんだん分かってきました。表面的な新発田の街の変化は毎朝早く一時間ほど歩き回ることだんだん分かってきましたが、昔との違いに驚くことが大分ありました。昔の面影が残っているところも多くみられました。自分自身にオリエンテーションをつけている訳です。これまでは「医師を育てる」という仕事でしたが、今度は「自分に自信をもてる社会人を育てる」ことが目標です。難しいがやりがいのある仕事だと思っております。

地球は宇宙における生物の存在できる唯一の星であるという共通理解が浸透してきた現在の社会では地球環境や生命科学を理解しないではすまされません。キリスト教的教養を基礎としてそれらを理解しようとするとき「生命倫理」の考え方が求められます。私自身これから学んできかねばならないと引き締めております。私自身が新入生として入学したような気持ちでおります。

先日、地元にいる新発田高校時代のクラスメイト(芝草会)が二十五人ほど集まり歓迎会を開いてくれました。会長の島津君に「お帰りなさい、石川君」といわれたとき、年甲斐もなくジーンとききました。会の終わる頃、幹事役の石原君に「敬和学園大学は阿賀北に唯一の大学として地元からおおいに期待されているのに、我が母校から入学者がほとんどいない。このことをしっかりと考えて欲しい」と強く言われました。地元の人たちがこの大学に抱いている熱い思いが胸に沁みました。自己紹介というよりも、近況報告みたいなになりましたがお許しの程を。

## 自己紹介に変えて

### …I先生宛手紙の抜粋

教授 田中 利幸



謹啓

本当に長らく御無沙汰をいたしておりますが、先生には如何お過ごしていらっしやいますでしょうか。

実はこの四月より、私は、新潟県新発田市(御承知のように、かの大杉栄が多感な幼年期を過ごした城下町)に十年前に創立されました、キリスト教系の小さな四年制大学、敬和学園大学の日本近現代史担当教員として赴任いたしました。(中略)

すでに先生も御承知かも知れませんが、オーストラリアの大学は、この数年間、政府の猛烈な教育予算削減と大学合理化政策のために、激しい教育レベルの低下と教職員の高齢化の低下をきたしております。これは基本的には、独立採算制をがむしやらに推進する政策で、現在日本政府が進めている大学法人化政策を極端化したものといえます。(中略)

そのような訳で、私もオーストラリアの大学で教員を務めることに精神的に限界を感じておりましたが、幸いにして、敬和学園大学に赴任することになりました。(中略) 私の個人的な研究についてですが、一九九六年に前著をアメリカで出版してから間もなく、イギリスのラトリッジ社に依頼されて、「慰安婦」問題に関する英文の本の

## 「始まり」としての「帰郷」

専任講師 杉村 使乃



執筆にとりかかりました。ところが、上述のようなオーストラリアの大学における労働条件の急激な悪化のために、計画していたように執筆がうまくはかどりませんでした。しかし、つい最近ようやく初稿を終え、やっとなんとかトンネルの出口が見えてきた感しております。(中略)

私も白髪が増え始めたせいも、凡庸な自分のできる仕事の限界が見えてきたような気がいたします。また、このところ、先生の著作集をじっくりと読ませていただいておりますが、先生の底の深いお仕事に刺激されて、これから十年間で自分には何ができるかということを考えるようになりまして。(中略)

これまで太平洋戦争の問題を追求してまいりましたが、「現日本の原点は明治にある」ということをこのところ痛感してなりません。そこでこれから、日清、日露戦争、第一次世界大戦に焦点を当て、これらの戦争を通して、日本社会がどのように歪んでしまったのか、ということの問題にしたいと思えます。(中略)先生の御指導をいただければ光栄に存じます。

先にも申し上げましたように、このところ先生の著作集をゆっくり読ませていただいておりますが、「I史学」の魅力にあらためて感動しております。私のような者が、先生にお会いする機会に恵まれたという自分の幸運を痛感している次第です。

先生、どうぞ御自愛下さい。

謹白

私は、新潟南高等学校を卒業した後、青山学院大学に進学しました。それから十年ほど東京で生活し、このたび敬和学園大学の専任講師の職を得て、新潟に戻ってきました。新潟出身ではあるものの(このことは敬和の先生方の間では珍しいことらしいですが)、今の私にとってこの故郷は、なじみの土地であると同時に、新しい挑戦の場でもあります。

私が新潟を離れた時期とちょうど同じくらいに敬和学園大学は誕生しました。それで、存在は知っていたものの、どのような大学かについては、あまり知りませんでした。そこで教員募集に応募するとき、ホームページで大学の中身を見て、「小規模だけど、なんだかおもしろそうな授業が一杯あるなあ」というのがそのときの感想でした。実際に大学での生活が始まり、優れた業績と経験をお持ちの先生方と学生が気軽に声をかけあっているのを目にすると、自分の学部時代と比べて、うらやましくなります。ゼミでさえ二十人以上もいたので、先生と直接、言葉を交わすことなど、本当にまれでした。敬和のこじんまりとしていて、親密な雰囲気を活かした授業を私もすすめていきたいと考えています。

私の専門分野はイギリス小説で、学部、大学院を通し、特にイギリスの女性作家たちの作品と社会的背景に興味を持っています。

す。特に、ブロンテ姉妹―「ジェイン・エア」を書いたシャーロット、「嵐が丘」を書いたエミリー、そしてあまり日本では知られていない末っ子のアンニーを中心に研究をすすめてきました。私の在学中は、「文学を研究する」ということがドラマティックに変化した期間と重なるのではないかと思います。個々の作品の主題やイメージを考察することにとどまらず、文学理論という手段を用いて、文学研究が様々な学問の分野―文化人類学、言語学、社会学、心理学など―へと越境し始めたのです。好奇心旺盛な担当教授や友人たちのおかげで、私もさまざまな文学理論に触れる機会を持ちました。特に悩み多き二十代の私(二十代を過ぎてても悩みはつきませんが)は、女性に関する問題点を多く呈示したフェミニズム文学理論に深く影響を受けたと思えます。「フェミニズム」と聞いただけで、「ぎょえーっ」と感じる方がいるかもしれませんが、私に関して言えば、「娘」、「妻」、そして「母」でもある自分のポジションにおける問題につきあたったとき、フェミニズムの様々な理論に勇気づけられることが多かったのです。

文学を通して、文学理論を通して、私は自分に関する問題点を考えることが多かったのです。そのような文学の「実用性」を授業でも学生に伝えていきたいと思えます。「偉大な文学」と呼ばれるものを読むときでも、自分がいるポジションに結びつけて読むもしろさを学生たちと分かちあっていたらと思っています。

## ごあいさつと自己紹介

専任講師 五十嵐 海理



このたび敬和学園大学に採用されました新人教員です。よろしくお願い申し上げます。

高校まで新潟におり、

実家もこちらなので、こちらに就職できて両親をすこし安心させられて喜んでいます。本稿では、学生時代と友達というテーマでお話してみます。

私は学部時代を神戸で、大学院時代を大阪で過ごしました。新潟を離れ、神戸で学生生活を始めたときは、関西のノリになじみず、関西弁が中国語のように聞こえたり、ボケとツツコミができないばかりに場をしらけさせてしまったり、なかなかカルチャーショックでした。その当時（一九八九年）は、現在のようにテレビなどで関西弁が全国的に流布される時代ではなかったのですが、ある問いかけに対してどういう反応が期待されているのか予測できませんでした。最初の頃は、友達もできず、サークルにも入らず、授業のときしか大学に出てこず、下宿に閉じこもって英語の本を読みまくる、かなりオタク的な生活をしていました。

そんなある日のこと、ゼミの先輩のひとりから、言語研究の同人誌に寄稿しないかと私を誘って下さいました。そのときに一緒に同人誌に寄稿した人たちの中に、留年してきて同じ学年になった方で、高度な生成文法についての知識を持ち合わせている先輩がおられました。また同じ三回生で、

古・中英語に興味を持って勉強している友達がいまいた。理学部を中退して神戸にきて、言語音を空気力学的に解析した論文を書き上げた先輩もおられました。彼らに会うのはじめて、学生らしく、勉強と人生を語り合ったような気がします。これはひとりのオタクがほかのオタクを発見したということに過ぎません。しかしこのことが私に英語学に進ませるきっかけでした。

大学院でも英語学を勉強しましたが、私の悪い癖が出て、小説だの批評理論だのとつまみ食いをしていました。しかし、神戸外大での先輩に当たる方が、ある日研究会で読書会をしようと誘って下さり、それから三年間かかって、形式意味論と音韻論の入門書を隅から隅まで読みました。この時期に形式意味論を一通りやったことは、現在私が専門分野をやる上で、強固な基礎となつていきます。また、この時期に、懸命に英語を勉強して、法廷通訳になられた社会人の方と出会い、モーラル・サポートをいただきました。

これらの先輩や友達とは、いまでも勉強やその他のことでお世話になっていきます。言葉の研究なんてつまらなそうに見えるかもしれませんが、これらの方々にお会いすると、言語（研究）に対する情熱とセンスを感じます。どんな分野でも、すてきな出会いがあると、学生生活も悪くないものだと思うられることでしょう。

## 新任契約講師より

メアリー・ヒューズ  
Mary Hughes



私は、シアトル・パシフィック大学で第三言語としての英語教授法の修士号を取得し、キャリアを歩み始めました。ここでの訓練や、アジア、アフリカ、そしてアメリカでの教育経験を通して、外国人に対する幅広い英語教育のアプローチを身につけました。動機が何であれ、学生の上達を見られるのがこの仕事のいいところです。英語を使うと、相互理解の大切さがわかります。友情が生まれれば、偏見は消え去ります。友情が私の文化と日本の文化をつないでくれる道具です。日本での私は、「教える」だけでなく、違う文化と言語を「学ぶ」立場にもあるのです。

授業では、学生たちのニーズを知ることが重要です。より効果的に教えるために、教師はそれらを見極めなければなりません。学生の動機を理解できれば、彼らのニーズにあった面白い授業ができるでしょう。個々の学ぶスタイルや異なる年齢層をまとめるため、様々な方法を提示しなければなりません。授業は学生が中心ですから、教師として柔軟に対応していくべきだと思います。

私は新しい環境に適応できると思いますし、学生を理解し、彼らの力になりたいと思っています。そして自分を高めるためにも、最新の英語教育に敏感でありたいと思います。英語を学ぶ人々に対するこうした気持ちは、自分の長所の一つではないでしょうか。この仕事を選んだことを本当に幸せに思います。多くのアメリカ人が仕事に対し、こうした気持ちを抱けるわけではないでしょうから。



マーク・フランク  
Mark Frank



私はアメリカのミズーリ州で育ち、サザンウェスト・ミズーリ州立大学で「英語」の学士号、「第二言語としての英語教授法」(TESOL)の修士号を取得し、一九九七年までそこで英語を教えていました。そして、親しくなった日本の学生と日本語を勉強し始めました。バラエティー・ショー、ドラマ、ヒット曲、小説などの日本文化に親しみ、「巻き寿司」を家で作るようになりました。一九九七年に新潟の英会話学校「イオン」で教えるため来日、そして敬和で教えることになりました。「大学」という環境に戻ることができてうれしく思います。

教育者としての目的の一つは学生が英語を学ぶ目的—海外勤務、留学、英語の資格試験、就職—toに必要な技術を具体的に教えることです。二つ目は英語で自分の意見や気持ちを伝える手助けをすることです。英語を通じ、新しい文化やコミュニケーションの方法に接すると、新しい自分に気づき、授業は大きな成長の場となるでしょう。「今日は、日本語でも言ったことのないことを言ったよ」という言葉を聞けたら、教師として最高です。

趣味は料理、お酒を飲むこと、音楽、ジョギングやサイクリング、日本の野草の栽培。そして祭りや地酒(ー)を通して、新潟の文化を探求することです。

新潟に来て三年、昨年の十二月には新潟市の女性と結婚し、新潟を「第二の故郷」と呼ぶことができるようになりました。そして何より新潟市の敬和学園大学に勤めることができて本当にハッピーです。

コンラッド・マトsumoto  
Conrad Matsumoto



敬和学園大学で教えることは、人生における素晴らしい経験の一つです。やる気にあふれ、生き生きとした学生の集まる教室に入っていく時の気持ちは筆舌につくせません。敬和の学生は、英語や他の外国語、そして外国の文化に強い興味を持っていますね。世の中は、インターネットのおかげでどんどん小さくなっています。そして英語の重要性は高まるばかりです。インターネットの情報の七十五%が英語で書いてあるのですから。敬和で学生は、様々なバックグラウンドと文化を持った人々とコミュニケーションをする方法を学んでいます。私も学生から教えられることがあり、こうした学生との情報交換はとて大切で、私が英語を教え始めて十年ほどになります。

日本では三年以上教えています。スペインで半年、あとはアメリカのカリフォルニアで教えました。私はカリフォルニアで育ち、そこに住む日系アメリカ人家族の四世代目でもあります。私は大学で心理学の学位と教員免許を取得しました。また第二言語としての英語を教える資格を持っています。教育や経験を通して、私の教職に対する情熱は培われました。そしてこれが学生の興味をひきつけ、彼らの好奇心と、向上心を刺激する上で役に立っています。

私は教師として成長し続けたいと思います。自分自身が飽かぬ向上心を持っていることを誇りに思っていますし、それぞれの仕事で抜きん出るためには必要なことでしょ。

田中 佳子



緑豊かな春の新潟平野に映える夕日の美しい黄昏の景色が、心のゆとりを育てるのを感じます。世知辛い、ピ

ルの谷間で雑踏に紛れて心の安定を感じる私には、この依りどころのない思いは初めての異文化体験です。時間の流れも、言葉の渡し方も、思いの遣り様もすべてが未知の経験です。

現代のような情報化社会になってしまつた以上、異文化は「遠く離れたところにあるもの」ではなく、なっているように思えます。機械文明や資本主義は遠く海を隔てた所も均質な情報・文化で繋いでしまつたのでしょ。そのような所をどんなに移動しても、それは同じ文化に支えられています。移動は交通機関に委ねられ、経済は消費によって支えられ、言葉は他者への橋渡しをする道具でしかありません。共感的理解を求めるには「個」である人が多すぎるのでしょか。

言葉は人が考えを組立てるための、また森羅万象をどう捉えるための道具なのか、社会生活における潤滑油なのか、この問題は今私を混乱させています。不言実行を善しとする、伝統的な文化に見守られながらどのようにして学習者に外国語としての日本語教育すればいいのか、これから大きな課題を与えられたと思います。試行錯誤の繰り返しでのご迷惑をおかけすると思ひますが、どうぞ宜しくお願いします。

## タイ王国特命全權 駐日大使一行来学

四月十八日にサクテイップ・クライライラーク駐日大使御一行九名が本学を訪れました。本学教職員、新発田市や聖籠町の方々が出席して歓迎会が行われ、大使からのご挨拶ののち、松崎英語英米文学科長が歓迎の言葉を述べました。教室では、学生との交流会が行われました。立ち見の人も出るほどの大勢の学生が参加しました。まず、大使の講演があり、予定の三十分を過ぎるほど活発な質疑応答がありました。



## ノースウエスタン 大学からのお客様

本学と学術協定を締結しているノースウエスタン大学のヴァンダウェルフ博士とアツピアバディ博士が、四月二十五日に来学されました。来学の目的は、同大学の国際プログラムの新しい責任者アツピアバディ博士の紹介、夏期短期留学への参加者募集と、本学との交流について協議することです。ここ数年、留学する学生が減少しているため、今後の増加が期待されています。ノースウエスタン大学は、すばらしい環境、充実した設備を誇る大学です。本学から大勢の学生が留学することを祈っております。  
(総務課長 長澤)

## 卒業後の私

第一回卒業生 米山 光紀

卒業してすでに六年が経過してしまいました。あつという間としかいいようがありません、何をやっているのか日々忙しく過ごしています。

卒業後すぐに(株)第一印刷所に営業として就職して、現在まで社会人生活を過ごしてきましたが、社会人とはこんなに働くのかというくらい仕事があり、年齢とともにそろそろ要領を覚えなければと思っている今日このごろです。

縁があって敬和学園大学同窓会の立ち上げから現在まで会長という形で関わっています。なかなか思っているような動きができず、同窓生の皆様には申し訳なく思っていますが、昨今のマルチメディアに伴い同窓会でもホームページを立ち上げて情報交換の場を提供しているかと動いています。みなさんに紹介できる日もそう遠くないでしょう。その際はみなさんで盛り上げていきましょう。

## お知らせ

ホームページが新しくなりました!

六月一日に、敬和学園大学の新しいホームページができました。大学の情報もみたくさんです。是非、アクセスしてみてください。ホームページのアドレスは次のとおりです。

URL <http://www.keiwa-c.ac.jp>

教員ホームページへクリック

西村秀雄助教授の私設ホームページが開設されました。授業情報、個人情報などが満載されています。西村先生のお人柄がよくわかります。興味がある人は、次のアドレスにアクセスしてみてください。

URL [http://www.page.sannet.ne.jp/h\\_nishi/](http://www.page.sannet.ne.jp/h_nishi/)

お客様来訪

オックスフォード大学ニッサン日本研究所長で聖アントニーカレッジのアーサー・ストックウイン教授が、本学に来訪され、講演会を行います。詳細は、次のとおりです。どなたでも参加出来ます。

テーマ 日本の政党政治―時代遅れか、それとも変革への鍵か?

日時 二〇〇〇年九月二十六日(火)  
十三時～十四時三十分

場所 本学新発田館三階三十二教室

創立十周年記念特別講演会

本学は、開学して十周年を迎えます。十周年を記念して、小和田恆氏とドナルド・キーン氏を講師にお迎えし、特別講演会を左記のとおり行います。ぜひ、ご参加ください。

なお、特別講演会へのご参加を希望される方には、整理券を発行します。詳細については、本学総務係(TEL 〇二五四一―二六一―二三九四)までお問い合わせください。

講師 日本国際問題研究所理事長

小和田恆氏  
コロンビア大学名誉教授

ドナルド・キーン氏  
日時 二〇〇〇年十月二十八日(土)  
十四時三十分～十七時

場所 聖籠町民会館

# 二〇〇一年度入試のご案内

## A〇入学試験スタート

面談を中心に入学希望者の適性を総合的に評価する新しい入試制度です。「面談申込カード」と「志望理由書」に基づいて面談Iおよび面談IIを行い、出願書類と併せて合格を決定します。学力試験は行いません。

## 推薦入学試験(指定校推薦)・(一般推薦)

面接と調査書および特別活動等で合格を総合的に判定します。指定校推薦は専願ですが、一般推薦は併願も可能です。

## 一般入学試験(A日程2科目型)

リスニング試験を含む英語と国語の2科目と調査書で合格を総合的に判定します。

## 一般入学試験(B日程1科目型)

試験場で英語と国語の問題内容を確認してから受験科目を選択できる1科目入試です。英語にリスニング試験はありません。

## 一般入学試験(C日程課題面接型)

提示された課題についての意見をまとめた後に面接試験を受ける入試です。

## 一般入学試験(センター入試)

センター試験の英語が必須、選択科目は国語、地歴、公民から1科目、他に調査書で合格を判定します。この入試による成績上位の入学者には、奨学金を支給します。なお、A日程、B日程、センター入試は重複試験も可能です。

## 【問い合わせ先】教務課入試係

フリーダイヤル 〇二二〇一・二六三・六三七

(入試委員会・入試室)

## 2001年度入学試験概要

### 入試日程

入試区分	学 科	募集人員	面談申込期間	試験日	合格発表	試験会場	選考方法
A O	英語英米文 国際文化	5名 5名	7月1日(土) ～3月31日(土)		出願後一週間前後	本 学	面談I、面談IIおよび出願書類(出願書類については一般入試に準ずる)

### 入試日程

入試区分	学 科	募集人員	出願期間	試験日	合格発表	試験会場	試験科目・配点
推薦	指定校推薦(専願制)	英語英米文 25名 国際文化 25名	11月1日(水) ～11月17日(金)	11月25日(土)	12月 1日(金)	本 学	面接、調査書、特別活動等
	一般推薦(公募制)	英語英米文 25名 国際文化 25名	11月1日(水) ～11月17日(金)	11月25日(土)	12月 1日(金)	本 学	小論文、面接、調査書、特別活動等
		英語英米文 15名 国際文化 15名	1月9日(火) ～1月25日(木)	2月 2日(金)	2月 9日(金)	本学、新潟、長岡、 会津若松	英語(リスニング含む)100点、 国語100点、調査書100点
	一般	A日程:2科目型	英語英米文 15名 国際文化 15名	1月9日(火) ～1月25日(木)	2月 3日(土)	2月 9日(金)	新 潟
B日程:1科目型		英語英米文 15名 国際文化 15名	1月9日(火) ～1月25日(木)	2月 9日(金)	3月16日(金)	本 学	面接100点、調査書100点
C日程:課題面接型		英語英米文 5名 国際文化 5名	2月19日(月) ～3月7日(水)	1月20日(土)、 1月21日(日)	2月 9日(金)		英語200点、国語、地歴、公民の11科目より 1科目200点、調査書100点
センター入試		英語英米文 10名 国際文化 10名	1月9日(火) ～1月29日(月)				

## 夜間コースを開講しました!!

本年度からVI限(十九時～二十時三十分)の時間に、正課授業を四科目開講しました。開講科目と履修者数(本学学生と科目等履修者数を含む)は、ビデオ・リスニング(四十一人)、文学(二十一人)、哲学(九人)、インターネット英語(三十八人)で、皆さん熱心に履修しています。

科目等履修生は、延べ三十一人が、夜間コースに登録しています。



## 新たなチャレンジ

科目等履修生 立石伸一



「英語を学びたい」これまでビデオ・カセットテープなど教材は眠ったまま。かといってまた掘り出してみてもどう

だろう? 何かいい勉強方法はないのか? そんな時、本学夜間コースのインターネット英語の紹介を知りました。果たしてどんな関連学習だろうか? それはインターネットの世界で英語で問いかけ、見たいものを探していくというもの。早速www.niigata-u.ac.jp初めて見る画面、パソコンは三年前からの私でしたが。ここで思いを込めた英文が必要。検索エンジンは理解してくれるかな? またもや不安。困っているとブラウン先生のやさしいアドバイス。目的にたどり着いた時は、とても嬉しいですね。あつという間に九十分、私は毎回熱中しています。子どもの頃のように見たもの聞いたものを素直に吸収していきたい。

# 二〇〇〇年度公開講座

本学では、毎年公開講座を開催しています。例年、五月に聖籠町で、九月に新発田市で実施していますが、本年度はそれに加え、豊栄市でも七月七日から公開講座を行っています。

聖籠町の公開講座では、五月十二日から六月十六日まで毎週金曜日に、聖籠町公民館で行われました。「これからの地域社会とは」をメインテーマに、教育・文化・行政・福祉・エコロジー・交流など、さまざまな視点から「地域社会」をとらえました。豊栄市の公開講座は、豊栄市ふれあいセンターを会場に、七月七日（金）から始まりました。メインテーマは、「育もう子どもたちを」で、各回のテーマと講師陣は表①のとおりです。

また、新発田市の公開講座は、八月二十五日から十月二十日までの毎週金曜日に、新発田市生涯学習センターで行われます。メインテーマは、「コミュニケーションについて考える」です。各回のテーマと講師陣は表②のとおりです。本学の公開講座についてのお問い合わせは次のとおりです。

敬和学園大学 総務課総務係  
Tel 〇二五四―二八一三九九  
E-mail sonnu@keiwa-c.ac.jp

表① 豊栄市公開講座「育もう子どもたちを」

7月7日	私の教育	学長 北垣 宗治
7月14日	罪の感情・キレる感情	助教授 益谷 真
7月21日	豊栄市の子どもと子育て支援	文教大学教授 櫻井 慶一氏
7月28日	大人が子どもと向きあうことの大切さ	本学カウンセラー 今成 京子氏
8月4日	子どもの成長と栄養について考える	教授 石川 喜一
8月11日	多発する少年犯罪とその問題点	本法人監事 弁護士 坂東 克彦

表② 新発田市公開講座「コミュニケーションについて考える」

8月25日	親と子のコミュニケーション	学長 北垣 宗治
9月1日	夫婦・家庭のコミュニケーション	専任講師 杉村 使乃
9月8日	言語から考えるコミュニケーション	専任講師 五十嵐 海理
9月22日	歴史が語る町づくりとコミュニケーション	新発田商工会議所副会頭 渡辺 幸二郎氏
9月29日	ITコミュニケーション	非常勤講師 本間 誠治
10月6日	パネルディスカッション 基調講演 「異文化コミュニケーションと男女間コミュニケーション」	教授 田中 利幸 ◆パネラー 教授 田中 利幸 助教授 ジェームズ・ブラウン 専任講師 中村 義実 ◆司 会 助教授 松本 ますみ
10月13日	コミュニケーションとは	学長 北垣 宗治

## ゼミ紹介

英語英米文学科教授 アラン・ブロンデ

日本で教えた十二年で本年度初めて、シェイクスピアをゼミで取り上げることになりました。きっかけは、イギリスの俳優であり映画監督でもあるケネス・ブラナーが一九九八年に作った映画です。多くの映画化が試みられましたが、これは「古典的」作品となるでしょう。

『ハムレット』は、シェイクスピア作品の中で最も長いだけでなく、最も偉大な作品でもあります。この最新の映画の日本語字幕つきビデオを使い、シェイクスピアを「歴史と演劇の意味」という観点で取り上げます。すると、『ハムレット』が西洋における中世から近代への変化を反映していることがわかるでしょう。

当時の英語は現代の英語とは違います。ですから、ネイティブ・スピーカーでも理解が難しいのです。字幕をたよりに、日本人学生の方がよりよく劇を理解できるかもしれません。四回を終了して、半分位を見終わり、有名な「独白」部分を詳しく読んでいます。この「独白」で、舞台上の人物は、自分の感情や、他の人物には言えない秘密を声に出して観客に伝えます。原文で読んでるので大変ですが、人間がいかに考え、感じるかを学ぶことはやりがいのあることでしょう。

劇を見終わった後、「シェイクスピアという偉大な大海原」に初めて足をつつこんだこの経験が、価値あるものであったかどうかを学生に聞いてみたいですね。この劇を「見る」ことが「なぜシェイクスピアが英文学の偉大な作家なのか」を考えるきっかけになればと思います。

# 一九九九年年度決算及び 二〇〇〇年度当初予算

学校法人会計では、予算・決算書類は法人全体の資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表があり、それぞれ、法人本部部門、大学部門及び高等学校部門ごとの内訳表で構成されています。本来はそれら全て掲載することにより連結決算の趣旨が生かされ、財政状況が完全に公開されます。

しかし、膨大な情報量と、複雑な会計システムをわかりやすく解説することは、紙面の関係上不可能です。ですから、今年度は表のとおり、最も財政状況を把握しやすい消費収支計算書を使い、内訳表の大学部門の大科目を公開します。

まず、九十九年度決算額の「翌年度繰越消費収入超過額」は約八億九千万円ありますが、法人本部の運営費の約九割は大学会計で賄っており、開学以来の累積額は約二億七千万円となっています。一方、体育館の新築と校舎増築に係る借入金金の残額は約五億七千万円となっています。この二点については表上には表れてきませんので、これらを収入超過累計額から差し引いて判断する必要があります。

次に、二〇〇〇年度当初予算をご覧ください。特徴は、昨年度に比べ帰属収入が約一億九千万円減収となったことです。大きな要因は、今年度の新入生及び在学生数が大幅に減少したことで、納付金が減収になったためです。一方、支出は約三千万円減

額されました。これは主に、採用者が退職者よりも少なかったことにより人件費が大幅に抑えられたためです。この結果、単年度では、約三千万円の支出超過となりました。

## 1999年度消費収支計算書及び2000年度同予算書

(収入の部)

科 目	1999年度決算額	2000年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	907,936,500	781,123,000	△ 126,813,500
手数料	14,067,091	11,880,000	△ 2,187,091
寄付金	30,206,491	31,065,000	858,509
補助金	132,594,328	101,527,000	△ 31,067,328
資産運用収入	9,413,411	9,178,000	△ 235,411
事業収入	198,000	150,000	△ 48,000
雑収入	27,638,134	602,000	△ 27,036,134
帰属収入合計	1,122,053,955	935,525,000	△ 186,528,955
基本金組入額	△ 67,413,669	△ 77,717,000	10,303,331
消費収入の部合計	1,054,640,286	857,808,000	△ 196,832,286

(単位：円)

(支出の部)

科 目	1999年度決算額	2000年度予算額	増 減
人件費	590,277,342	531,909,000	△ 58,368,342
教育研究経費	237,766,961	256,784,000	19,017,039
管理経費	73,394,112	72,906,000	△ 488,112
借入金等利息	17,801,520	16,789,000	△ 1,012,520
資産処分差額	628,938	0	△ 628,938
予備費	0	10,000,000	10,000,000
消費支出の部合計	919,868,873	888,388,000	△ 31,480,873
当年度消費収入超過額	134,771,413		
当年度消費支出超過額		△ 30,580,000	
前年度繰越消費収入超過額	757,381,998	892,153,411	
翌年度繰越消費収入超過額	892,153,411	861,573,411	

(単位：円)

た。しかし、新入生数が予算編成時の見込数を上回りましたので、補正予算では、収支はほぼ均衡する見込みです。  
大学の収入のほとんどは学生納付金です。学生数の減少は、ただちに財政に影響を与えます。  
今後とも財政については、厳しく管理していきたいと思っております。

## 著書紹介

房 文慧助教 著

# 『化粧品工業の比較経営史―経営戦略からみた中国と日本』

日本経済評論社、一九九九年十二月刊（六〇〇〇円＋税）

本書は日中両国の化粧品産業の経営戦略を比較することを目的としています。日中の化粧品企業から代表的企業を選んで、経営戦略がいかに展開してきたのか、その共通点と相違点を浮き彫りにし、それらがなぜ存在するかを探りました。

中国では八十年代、改革開放の中で化粧品が急速に普及しました。日本の大手企業もこの時代、中国に進出しました。日中の化粧品産業の戦略は、①多角化戦略、②マーケティング戦略、③組織変化の三点において、共通点があります。しかし、国際戦略に関しては、日本が外国で現地法人を設立する傾向があるのに対し、中国は国際基準に沿って経営・販売を行うという点で異なります。また、専業から多角化経営への変遷という点でも違います。日本の化粧品産業は研究開発に技術と資金を注ぎ、医薬品、サニタリー、衣服、医療器具方面まで進出しています。しかし、中国では企業買収で多角的部門に乗り出す企業が多いのです。



また、販売方法も異なります。日本では顧客データを重視した戦

略をとります。しかし、中国では消費者が多いので、顧客データを重視せず、イベント中心の販売戦略をとります。他方、日本の経済資源には、人材、資金、情報や技術といったノウハウが潤沢なのに対し、中国では、資金、技術の点で日本に及びません。計画経済と市場経済の資源配分方式が違うからです。だからこそ、買収を中心とした経営戦略をとるのです。

今、化粧品産業は転換期を迎えています。日本では若年人口の減少のため、ターゲットの年代層が変わってきています。それに伴い、従来の「つける化粧品」から「食べる化粧品」への転換が起きています。外面的というよりはむしろ精神的な豊かさを演出するための道具の役割を担うようになっていきます。

一方、中国でもその巨大な市場を求めて外国企業の進出が相次ぎ、競争は激化しています。安価な少数民族向けの化粧品を開発するなど、戦略は多様化しています。また、両国共通の問題として、環境問題があります。化粧品の成分の九十%が化学製品ですので、人によって有害となることがあります。また、排水は環境汚染を引き起こしがちですし、容器のリサイクル問題もあります。これら問題を解決していくことが、これからの化粧品産業に残された課題でしょう。

(著者談)

## クラブ紹介

# FMラジオオサークル

部長 酒井 努

皆さん、こんにちは。FMラジオオサークル部長の酒井努です。僕達FMラジオオサークルは新発田のラジオ局「ラジオアガット」(七六・九MHz)で、「あおぞらボンバー」という番組を毎週土曜日夕方五時半から六時までの三十分間放送しています。

内容はすべて自分たちで考えています。コーナーの例を挙げると、敬和学生からアンケートを集めて紹介する「がんばって敬和」のコーナー、敬和の演劇部によるラジオドラマのコーナー、どうでもいいけどちょっと気になる雑学を紹介する「ゴミ知識」のコーナーなどがあります。

活動は週一回で、第一週をミーティング、第二週を収録というように交互に行い、その他必要に応じて召集をかけます。ミーティング場所は現在、部長アパートとなつていますが、今年度は部室を借りる予定です。

さて、昨年度はサークルの活動を評価され、大学から表彰を受けることができましたのですが、僕個人としては納得できるものではありませんでした。そこで今年度は「学生ならではの」をモットーに大学に密着した番組を製作していきたいと思っています。そしてゆくゆくは敬和を代表するサークルにしていきたいのです。これから皆さん注目して、まずは僕たちの番組を聴いてください。

# 二〇〇〇年度後援会 事業報告

二〇〇〇年度敬和学園大学後援会の総会が、四月四日大学入学式後に開催され、二〇〇名近い会員の出席のもとで、総会次第にしたがって進められました。学園側からは、後宮理事長、北垣学長（共に本会顧問）ご臨席の上、丁寧な祝辞をいただきました。

総会では、一九九九年年度決算、二〇〇〇年度事業計画及び予算案が上提され、いづれも満場一致で可決承認されました。また卒業に伴って、二名の役員交代を含めた、会長を始め役員改選につきましても承認をい

いただきました。  
総会で承認された決算及び予算ならびに役員について報告いたします。

## 2000年度役員

職名	氏名	名
会長	石井 富男	7回生保護者
副会長	海津 博	8回生保護者
副会長	尾川夕エ子	8回生保護者
理事	川瀬耕太郎	9回生保護者
理事	小林 真一	10回生保護者
理事	津野奈津雄	10回生保護者
監事	高澤 正	8回生保護者
監事	岩槻 好子	9回生保護者

## 収入の部

科目	1999年度予算	1999年度決算	2000年度予算
後援会費	37,500,000	35,760,000	35,000,000
寄付金	1,000	1,000	1,000
雑収入	100,000	59,723	50,000
繰越金	5,043,931	5,043,931	9,046,663
合計	42,644,931	40,864,654	44,097,663

## 支出の部

科目	1999年度予算	1999年度決算	2000年度予算
事業活動費	3,500,000	2,085,828	3,200,000
会議費	300,000	266,302	250,000
事務費	350,000	320,000	50,000
通信費	1,700,000	1,620,110	1,700,000
印刷製本費	2,000,000	1,596,670	1,800,000
手数料	50,000	8,645	50,000
学生クラブ補助費	3,800,000	3,560,000	3,700,000
アクセス維持管理補助費	800,000	700,000	800,000
学園祭補助費	1,500,000	1,450,000	1,500,000
教職員活動補助費	500,000	300,000	300,000
施設、設備、備品補助費	22,000,000	19,349,667	14,670,000
大学10周年記念助成金	0	0	10,000,000
旅費交通費	250,000	90,000	150,000
雑費	894,931	470,769	927,663
予備費	5,000,000	0	5,000,000
次年度繰越	0	9,046,633	0
合計	42,644,931	40,864,654	44,097,663

## 学事予告

### ◆七月◆

十四日 前期講義終了

豊栄市公開講座②

十七日 補講日（～二十一日）

豊栄市公開講座③

二十二日 オープンキャンパス①

二十四日 前期末試験（～八月四日）

二十八日 豊栄市公開講座④

### ◆八月◆

四日 豊栄市公開講座⑤

五日 夏期休暇（～九月二十四日）

七日 前期集中講義（～十一日）

十一日 豊栄市公開講座⑥

二十五日 新発田市公開講座①

### ◆九月◆

一日 新発田市公開講座②

八日 新発田市公開講座③

九日 オープンキャンパス②

二十二日 新発田市公開講座④

二十九日 新発田市公開講座⑤

## 寄付者ご芳名

- 一般 田村賢雄
- 一九九一組 小野澤武晴
- 一九九二組 渡辺大知
- 一九九三組 呉 賢欄 時光耕平
- 一九九四組 鈴木貴之
- 一九九五組 佐藤浩雄 船橋辰則
- 一九九六組 齋藤豪芳 上田幸信
- 岩村忠輔 桑原裕美
- 本多大峰

